



フィールズ株式会社
証券コード：2767

2015年3月期
株主通信 (中間)
2014.4.1 → 2014.9.30

VOICE & VISION CONTENTS

- 01 会長メッセージ
- 03 マネジメントメッセージ
- 05 マネジメントレビュー
- 07 連結財務諸表(要約)
- 08 主要財務指標3年サマリー
- 09 IPTピックス
- 11 コーポレート・ガバナンス/CSR活動事例
- 12 IRコミュニティ
- 13 コーポレートデータ/株式情報
- 14 第三者によるフィールズの分析レポート

すべての人に最高の余暇を

The Greatest Leisure for All People



代表取締役会長 (CEO) 山本 英俊

人々の心を豊かにする余暇の在り方について真剣に向き合い、挑戦を続けてまいります。

私たちは「すべての人に最高の余暇を」という企業理念のもと、人々の心を豊かにする商品やサービスの提供に努めてまいりました。それは、テクノロジーの進化や医療の発展によって人々の余暇時間が拡大し、成熟する日本社会においては、心を豊かにする余暇が必要とされると考えたからです。

創業以来、私たちは未来の人々の暮らしやそこにあるエンタテインメント、また人々の心を豊かにする余暇の在り方について調査、研究を重ねてまいりました。そして、10年後、20年後、私たちが提供すべき商品やサービスを思い描き、その具現化に向けて歩みを続けてまいりました。

パチンコ・パチスロでは、勝ち負けだけではなく、より多くの人々が楽しめる余暇時間を提供したいとの想いから、キャラクターやストーリーといった知的財産を活用した商品開発を進めてまいりました。そして、数多くの知的財産を取得し、同時に取得した知的財産の価値を高めるべく、各分野のクリエイティブに秀でた企業や人材、最先端の技術を有する企業とのパートナーシップを構築してまいりました。

その過程で、余暇の時代に、より新しく、より人々が楽しめる知的財産が必要になると考えた私たちは、従前より存在するエンタテインメントの各分野を有機的に結びつけ、知的財産を中核に据えて循環させるといった、これまでにない新たなビジネスモデルを発表いたしました。

それから2年半、私たちは、コミックス、映像、コンシューマサービス、パチンコ・パチスロなどの様々な分野において、ビジネスモデルの具現化を

進めてまいりました。また、新たなモノ創りの仕組みとして、様々な才能を持つものが有意義な情報に触れ、自らも価値ある情報を発信する、グループ全体をつなぐ新たなクリエイティブ・コミュニケーションの仕組みも構築してまいりました。

今後は、各分野のスペシャリストやパートナーの方々との強い絆に加え、社員自らが質の高いコンシューマとして、エンタテインメントを創造するプロデューサーとして成長することで、世の中に全く新しい価値を提供できるものと信じております。

私たちフィールズは、常にその時代の人々の生活を予見し、それに合わせた商品やサービスを創造することに真剣に向き合い、日々挑戦を続けてまいります。そして、これまで培ってきた礎をより強固なものとしつつ、力強く前進してまいります。

これまでも私たちの理念や姿勢にご賛同いただき、多大なお力添えを賜りました株主の皆様をはじめ、取引先の方々、社員、そのご家族の皆様へ深く感謝いたしますとともに、これからも皆様からのご期待に応えるべく、グループ一丸となってまい進してまいりますので、引き続き、倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2014年12月

山本英俊





大屋 高志

代表取締役社長 (COO)
大屋 高志

現状分析に基づく将来を見据えた施策展開により、IP (知的財産) の価値向上に取り組んでいます。

私たちは、将来を見据えた中長期的な経営課題として、強みとするパチンコ・パチスロの領域のみならず多様なエンタテインメント領域において、秀でた知見やノウハウを有する企業とのリレーション構築や人材の確保などに取り組んできました。そして培ったネットワークや当社グループの機能拡充、人材の確保などを基盤に、2012年、IPを主軸に置いた「成長するビジネスモデル」を発表し、パートナー企業と連携して新たなIPの創出と創出したIPの育成を推進しています。

当社のビジネスモデルは、クロスメディア展開に

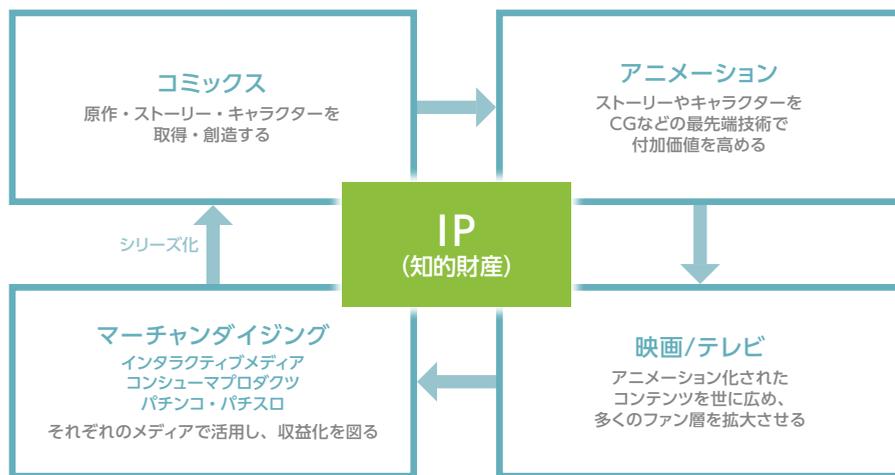
よって、IPそのものの価値向上を図る取り組みです。IPの価値向上のため、単純に複数のメディアに展開するのではなく、IPの世界観を確立し、その魅力をメディアによって高めるために、戦略的に映像化や商品化という多様なメディアを活用した展開を行います。歴史が物語るように、メディアに依存する仕組みの多くは、進化を伴わなければ最終的に廃れてしまいます。つまり、IPの力をもってメディアとしての競争力を高めていく過去の取り組みから進化し、様々なメディアと連携して、パートナー企業とともにIPの価値を最大化していくことが現在のミッションであり、喫緊の課題です。

中長期的な視点で、IPを主軸に置いた循環型ビジネスモデルを推進していく中で、メディアの形態が変わる可能性も十分にあると認識しています。そのことを踏まえ、あまり既成概念をつくらず、都度適切な体制をもって、企業理念の実現に臨んでまいりたいと考えています。

今後もさらなる挑戦を続ける一方で、株主の皆様への配当原資の認識は最上位に置きつつ、取り組んでまいり所存です。飛躍への準備を整え、次なるフェーズへ移行していく当社にどうぞご期待ください。

株主・投資家の皆様をはじめとしたステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

成長するビジネスモデル



常に新しい視点を持ち、IPをコアとしたビジネスモデルを推進しています。

当社グループでは、魅力的なIPの創出に向け、組織体制や人材配置など、試行錯誤を繰り返してきました。徐々にその成果は出始めていますが、そう簡単にいくものではないと覚悟したうえで、メジャーIPの創出に挑み続けてきました。

「月刊ヒーローズ」はそうした取り組みの一つです。同誌掲載作品の映像化が進み始めていますが、これは今までの取り組みの成果というよりは、今までの取り組みを基盤としてチャレンジする機会が増えてきたと捉えています。チャレンジによって、IPとしての価値が向上するものもあれば、そうでないものもありますが、大事なことは、外部の優れたパートナーの力もお借りしながら、その確率を少しでも高めていくことだと考えています。同誌から高く支持される作品を生み出すことができれば、同誌の価値も変わり、それをきっかけに、当社のビジネスモデルも、より意義のあるモデルになるはずです。その可能性は十分に出てきていると感じています。

当社が取り組む一つひとつの事業領域は、従前から存在しているビジネスサイクルではあるものの、これらを単一の事業領域とは捉えず、一元的に繋いでクロス展開できるビジネスモデルに仕上げ、新しい付加価値を生み出すことは、今後のエンタテインメント業界において、非常に重要な位置づけであると考えています。また、IPの創出、育成、マネタイ

ズの新たな方法について、常に新しい視点を持ってチャレンジしていく考えです。

現在の国内市場では、コミックス、アニメ、映画、ゲーム、遊技機など、どのメディアからも高い支持を得るIPが創出される可能性があります。そして、高い支持を得たIPのクロスメディア展開はすでに常識になってきていることを認識しておく必要があります。

今後の取り組みに必要なことは、ただ漫然と成功事例のキャッチアップを目指すのではなく、クロスメディア展開における一歩二歩先のことを社員全員で考え抜き、試行錯誤を繰り返していくことです。さらに、アジアや欧米など海外を意識することも今後求められてきます。国内市場を軸に海外展開を考えたとき、例えばどうローカライズするかまで意識することは、クロスメディア展開を二歩三歩先に進めるために不可欠なことと考えています。

ステークホルダーの皆様におかれましては、当社グループの成長にご期待いただきますとともに、末永いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



繁松 徹也

専務取締役

繁松 徹也

2015年3月期上半期 (以下、「当上半期」) の総括



当上半期の連結業績は、売上高20,341百万円 (前年同期比44.1%減)、営業損失4,077百万円 (前年同期は営業利益2,176百万円)、経常損失4,072百万円 (同 経常利益2,144百万円)、四半期純損失2,509百万円 (同 四半期純利益1,434百万円) となりました。

業績変動の主因は、次の通りです。

当社グループは、IPを中核とした循環型のビジネスモデルに基づき、IPの育成・事業化を推進していますが、当上半期の業績変動は、主として遊技機販売に起因しています。

遊技機販売においては、パチンコ遊技機約

73,000台 (前年同期比36,000台減)、パチスロ遊技機約28,000台 (同33,000台減) の販売となり、総販売台数は前年同期と比較して減少しました。これは、主に当上半期に売上計上した機種数が前年同期と比較して減少したことによるものです。パチンコ遊技機では、前年同期に『CRエヴァンゲリオン8』をはじめ3機種を計上しましたが、当上半期は1機種のみ計上となりました。パチスロ遊技機では、前年同期に2機種を計上しましたが、当上半期は販売予定であった1機種を下半期のラインアップへと変更したため、1機種のみ計上となりました。

当上半期の主なIPの育成・事業化の取り組みは、

次の通りです。

当社が推進するIPのクロスメディア展開にあたっては、各メディアに精通したパートナー企業や秀でたクリエイター・プロデューサーと協業しながら推進しています。

キャラクターやストーリーなどのIPの創出には、「月刊ヒーローズ」を中核に取り組んでいます。現在、ヒーローズから生み出された作品のうち5作品について、来期以降の劇場公開及びテレビ放送を見据えた映像化に着手しています。当上半期においては、2014年7月に『ソウルリヴァイヴァー』の米国ハリウッドでの実写映画化に向けた脚本開発を開始した

売上高 (単位: 百万円)



営業利益又は営業損失 (△) (単位: 百万円)



経常利益又は経常損失 (△) (単位: 百万円)





ほか、同年9月に『ソードガイ 装刀凱』を原作としたアニメコンテンツの開発にも着手しました。

ヒーローズ作品以外にも、映像や小説などを起点としたIP開発やクロスメディア展開に多数参画しています。米国のパートナー企業と共同製作した『アップルシード アルファ』は、北米での映像公開に続き、2014年10月に開催された東京国際映画祭でプレミア上映されました。2015年1月に日本国内での劇場公開を予定しています。

IPの収益化を担うマーチャンダイジングの分野では、『ウルトラマン』シリーズにおいて、前期にスタートした新テレビシリーズを継続させ、2014年

7月より『ウルトラマンギンガS』の放送を開始しました。また、「ウルトラマンシリーズ」をはじめ(株)円谷プロダクションが有する多くのIPの認知度向上及び活性化に向けて各種施策を推進しました。

ソーシャルゲームにおいては、2014年9月に、オリジナルIPを活用したアプリ『ことこと-ラゼツとコトヅマの国-』をリリースしました。配信開始から3週間で50万ダウンロードを超えるなど、計画を上回るスタートを切りました。

遊技機販売においては、2014年7月に『パチスロ戦国BASARA3』、同年10月に『CR ayumi hamasaki 2』などを販売しました。

2015年3月期の見通し

2015年3月期の連結業績予想は、期初の計画通り、売上高100,000百万円(前年同期比13.0%減)、営業利益5,000百万円(同48.9%減)、経常利益5,000百万円(同48.8%減)、当期純利益2,500百万円(同53.4%減)を見込んでいます。

なお、2014年8月に警察庁より遊技機メーカーの各組合に対して、一般財団法人保安通信協会※におけるパチスロ遊技機の型式試験方法を、同年9月16日以降に申請される商品を対象として変更する旨の伝達がありました。当社は、本件を受け、提携メーカー各社と協議の上、迅速に対応しています。

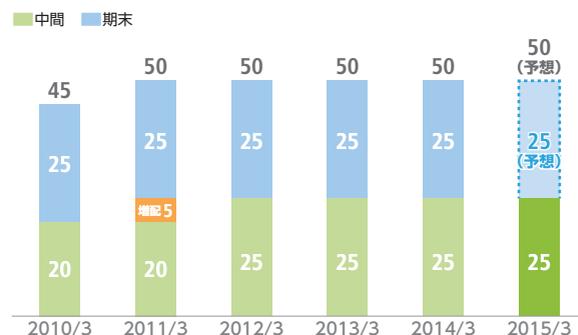
事業展開では、パチスロ遊技機において、投入時期を下半期へ変更した商品の販売を予定するほか、パチンコ遊技機において、同年10月に販売を開始し、高い評価を得ている『CRエヴァンゲリオン9』をはじめ、今後投入を予定する商品についても積極的な営業活動に努めていきます。さらに、取り扱い商品の多様化など、遊技機流通の強みを活かした施策を実施していきます。

※国家公安委員会の「指定試験機関」で都道府県公安委員会の委託を受けて遊技機の型式試験を行う協会

当期純利益又は純損失(△) (単位:百万円)



1株当たり配当金 (単位:円)



※ 2012年10月1日付で、普通株式1株を100株に分割しており、過去に遡って当該株式の分割を考慮した額を掲載しています。

Consolidated Financial Statements

連結財務諸表 (要約)

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	前連結会計年度末 2014年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間末 2014年9月30日現在	増減額
資産の部			
流動資産	66,921	33,752	△33,169
固定資産	37,948	36,656	△1,292
資産合計	104,869	70,408	△34,461
負債の部			
流動負債	41,730	11,242	△30,488
固定負債	4,386	4,151	△235
負債合計	46,116	15,394	△30,722
純資産の部			
株主資本	58,670	55,473	△3,197
その他の包括利益累計額	△390	△968	△578
少数株主持分	473	509	36
純資産合計	58,753	55,014	△3,739
負債純資産合計	104,869	70,408	△34,461

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 2013年4月1日から 2013年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	増減率 (%)
売上高	36,385	20,341	△44.1
売上原価	22,737	13,420	△41.0
売上総利益	13,648	6,920	△49.3
販売費及び一般管理費	11,471	10,998	△4.1
営業利益又は営業損失(△)	2,176	△4,077	—
営業外収益	331	608	83.7
営業外費用	364	603	65.7
経常利益又は経常損失(△)	2,144	△4,072	—
特別利益	—	478	—
特別損失	22	47	113.6
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	2,121	△3,641	—
法人税等	770	△1,191	—
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失(△)	1,351	△2,450	—
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△82	59	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,434	△2,509	—

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 2013年4月1日から 2013年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,554	△11,111	△6,557
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,650	△1,092	558
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,387	△1,200	187
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△7,590	△13,404	△5,814
現金及び現金同等物の期首残高	23,309	29,583	6,274
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△10	—	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,708	16,178	470

(注) 増減額及び増減率については、表上計算しています。

財務情報の詳細については
当社IRサイトをご覧ください。

<http://www.fields.biz/ir/j/>

フィールズ IR

検索



3-Year Summary

主要財務指標3年サマリー

	2013年3月期		2014年3月期		2015年3月期	
	上半期	通期	上半期	通期	上半期	通期(見直し)
経営成績(百万円)：						
売上高	29,118	108,141	36,385	114,904	20,341	100,000
売上総利益	8,824	33,279	13,648	33,812	6,920	—
売上総利益率(%)	30.3	30.8	37.5	29.4	34.0	—
営業利益又は営業損失(△)	△1,859	10,314	2,176	9,791	△4,077	5,000
売上高営業利益率(%)	—	9.5	6.0	8.5	—	5.0
経常利益又は経常損失(△)	△1,738	10,268	2,144	9,765	△4,072	5,000
売上高経常利益率(%)	—	9.5	5.9	8.5	—	5.0
当期純利益又は純損失(△)	△980	4,720	1,434	5,370	△2,509	2,500
売上高当期純利益率(%)	—	4.4	3.9	4.7	—	2.5
財政状態(百万円)：						
総資産	63,997	106,628	83,774	104,869	70,408	—
純資産	49,352	55,098	56,106	58,753	55,014	—
自己資本	48,942	54,559	55,802	58,279	54,504	—
有利子負債	1,386	1,052	550	743	402	—
キャッシュ・フロー(百万円)：						
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,070	13,570	△4,554	16,322	△11,111	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,625	△6,263	△1,650	△8,018	△1,092	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,111	△2,277	△1,387	△2,018	△1,200	—
フリー・キャッシュ・フロー	△1,555	7,307	△6,205	8,303	△12,204	—
1株当たりデータ(円)：						
当期純利益(損失)	△29.54	142.27	43.22	161.83	△75.63	75.34
純資産	1,474.90	1,644.15	1,681.62	1,756.27	1,642.50	—
配当金	中間 25	期末 25	中間 25	期末 25	中間 25	期末 25
主要経営指標(%)：						
ROE(自己資本当期純利益率)	—	8.9	—	9.5	—	—
ROA(総資産経常利益率)	—	10.3	—	9.2	—	—
自己資本比率	76.5	51.2	66.6	55.6	77.4	—
配当性向	—	35.1	—	30.9	—	66.4

IPを基軸とし、クロスメディア展開を推進

IP総数144本、映像化やマーチャンダイジング化など88メディアに展開予定



©セーラーゾンビ製作委員会
テレビドラマ『セーラーゾンビ』

セーラーゾンビ

フィールズ原案のIPの世界観をもとに、
同時期に多様なメディアへクロス展開

フィールズ原案の『セーラーゾンビ』の世界観をもとに、パートナー企業とともにクロスメディア展開を推進しています。2014年4月より、『月刊ヒーローズ』での連載やアイドルグループ「AKB48」を起用したテレビドラマ、アーケードゲームを展開しました。

公式サイト <http://www.sailorzombie.jp/>

ことこと-ラセツとコトダマの国-

ゲーム発のオリジナルIPの創出、
新感覚の「ことば発見 RPG」

オリジナルIPを活用したスマートフォン向けゲームアプリとして、2014年9月にリリースしました。常日頃使用している「ことば」を駆使して遊ぶ「ことば発見 RPG」として、ルールの気軽さと新感覚のゲームシステムがユーザーに注目されています。さらに多くのスマートフォン、タブレットユーザーにプレイいただけるよう、引き続きファンの拡大を図っています。



©Fields / FutureScope

公式サイト <http://www.koto2.jp/>

ウルトラマンギンガS

シリーズを通じてIP価値向上に
向けた取り組みを推進

「ウルトラマンシリーズ」は、1966年のテレビ放送開始から、数々の作品を経て、幅広いファン層に支持されるメジャーIPです。2013年7月から放送したテレビシリーズ『ウルトラマンギンガ』に続き、2014年7月からは『ウルトラマンギンガS』のテレビ放送を開始しました。シリーズを通じてIP価値向上に取り組んでいます。



©円谷プロ

公式サイト <http://m-78.jp/ginga/2014/>

コミックス

パチンコ・パチスロ

コンシューマ
プロダクツ

IP総数
144本

ファンの創出・拡大

アニメーション

映像/ライブメディア

インタラクティブ
メディア

ソウルリヴァイヴァー

ハリウッド実写映画化プロジェクト
始動を発表、共同脚本開発に着手



©ヒーローズ

「月刊ヒーローズ」連載作品『ソウルリヴァイヴァー』のハリウッド実写映画化に向けた脚本開発を進めています。映画『ラストサムライ』などを手掛けたハリウッド映画製作会社The Bedford Falls Company、日本のコンテンツのハリウッド展開を推進する(株) All Nippon Entertainment Worksと3社共同で2014年7月、実写映画化プロジェクトを始動しました。

公式サイト <http://www.heros-web.com/works/soul.html>



Motion picture © 2014 Lucent Pictures Entertainment Inc./Sony Pictures Worldwide Acquisitions Inc., All Rights Reserved.
Comic book © 2014 Shirow Masamune/Crossroad

アップルシード アルファ

海外でも人気の高いコミックを原作に、
最新のCG技術で映像化

日本国内のみならず海外でも人気の高いコミックのリポート作品として、米国ユニバーサルピクチャーズ・ワールドワイド・アクイジションズと共同で3DCGの長編アニメーションを製作し、2014年7月に北米・欧州にてリリースしました。日本国内では、同年10月に「第27回東京国際映画祭」の特別招待作品としてジャパンプレミア上映を実施し、2015年1月には劇場公開を予定しています。またその後も、開発した映像コンテンツをもとに多様なメディアへ展開を図っていきます。

公式サイト <http://appleseedalpha.jp/>

ソードガイ 装刀凱

多メディア展開に向けた
プロジェクトを始動



©ヒーローズ

(株) ディー・エル・イーとの共同コンテンツ開発及び国内外の多メディア展開に向けた取り組みとして、2014年10月に「月刊ヒーローズ」連載作品の『ソードガイ 装刀凱』を原作としたアニメコンテンツ開発に着手しました。今後、両社の持つノウハウやネットワークを活用し、ゲーム分野やマーチャンダイジング分野など、幅広いエンタテインメント領域に取り組みを拡大していきます。

公式サイト <http://www.heros-web.com/works/swordgai.html>

コーポレート・ガバナンス／CSR活動事例

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社は、企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の提供を使命とし、企業価値を継続的に高めていくことを経営の基本方針としています。

この基本方針を実現するために、コーポレート・ガバナンスを有効に機能させることが、重要な経営課題の一つであると考えています。コーポレート・ガバナンス体制強化については取締役会、監査役会、会計監査人を中核とした枠組みの中で経営機構や制度の改革を進めていきます。

また、当社と子会社からなるフィールズグループは、グループの経営方針に基づき、方針と施策を綿密に協議したうえで、互いに合意した経営計画に沿った企業経営を行っており、グループへの投融資実行・撤退基準を徹底することでグループ全体の価値向上を目指しています。

社外監査役に聞く、フィールズのガバナンス



社外監査役（常勤）

池澤 憲一

(いけざわ・けんいち)

1973年ソニー（株）入社後、Sony France S.A.経理財務部長、Sony Corp. of Hong Kong Ltd.管理部長、ソニー（株）国際会計部統括部長などを歴任。同社を退社後、(株)ベネッセコーポレーション、エルメスジャパン(株)などを経て、2012年フィールズ(株)社外監査役(常勤)に就任。現在に至る。

当社では、トップマネジメント自らが、有効なコーポレート・ガバナンス機能の充実を経営の最重要課題の一つと掲げ、取締役会・監査役会双方ともそれらを共有しております。このコーポレート・ガバナンス機能重視の姿勢は、4名の監査役全員と1名の取締役を外部から招聘し、外部からの視点と社外役員それぞれの高い専門性に基づいた助言などが期待される体制となっているところに具現化されております。監査役は定期・臨時に開催される取締役会・その他重要会議に出席するだけでなく、取締役・執行役員などとの個別面談、及び会計監査人・監査室・子会社監査役との情報交換会、往査立会いなどを行うことにより、会社の実態把握・影響力発揮に努めております。有効なコーポレート・ガバナンス機能は、会社のコンプライアンス（法令遵守）を保証し、会社の持続的成長に不可欠であります。このような、トップマネジメントの認識と監査機能によって当社のコーポレ

ト・ガバナンス機能は担保されております。

フィールズグループは、成長戦略として、IPを基軸とした循環型ビジネスモデルを確立し、グループの持続的成長を目指しております。価値あるIPの取得・創出や、多様なメディアへの展開にはビジネスパートナーとの協働などが欠かせず、こうした事業活動はグループ全体で取り組んでおります。IP関連の重要な投資判断や投資執行後のプロセスの管理、そしてそれらの投資効果の検討はグループの観点からなされることが重要です。フィールズグループとしてのコーポレート・ガバナンス体制は、「グループマネジメント規程」「グループ稟議決済基準」に基づいて構築されております。それらにより、グループ各社は個性を活かした経営が可能となり、本社との情報共有を行うことで、グループ全体の企業価値最大化が図られております。

主なCSR活動事例

- ✔ 東京都渋谷区南平台町（本社周辺）定期清掃活動の実施
- ✔ (一社) JEAN主催 鵜沼海岸クリーンアップキャンペーンへの参加
- ✔ チャリティゴルフトーナメントへの協賛
- ✔ 社内コミュニケーションツール「campus」の開発、導入、運用
- ✔ eラーニングシステムを活用したコンプライアンス教育の実施
- ✔ 品質マネジメント国際規格「ISO 9001:2008 (JIS Q 9001:2008)」の認証更新
- ✔ 情報セキュリティマネジメント国際規格「ISO/IEC 27001:2005」及びその国内規格「JIS Q 27001:2006」の認証継続
- ✔ ウルトラマン基金による、東日本大震災被災地の子どもたちへの支援活動

第26回定時株主総会のご報告

2014年6月18日（水）に第26回定時株主総会を開催しました。当社株主総会は、招集通知の早期発送、集中日開催の回避、インターネットなどの電磁的方法による議決権行使を可能にするなど、権利行使の環境充実に努める一方、株主総会当日は、当社グループの事業の理解促進に資するべく、映像などを利用した視覚的工夫を行うなど、株主の皆様が充分にご審議いただけるよう努めています。

なお、議決権の行使結果につきましては、臨時報告書としてEDINETに掲載するとともに当社IRサイトにも掲載しています。

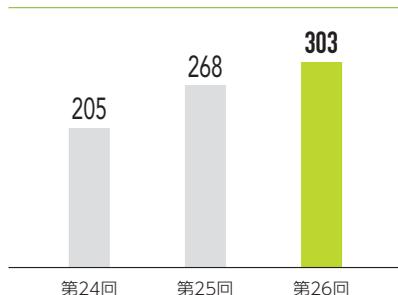
当社IRサイト <http://www.fields.biz/ir/j/library/meeting/>



所要時間

第24回	1時間33分
第25回	1時間00分
第26回	1時間12分

当日出席者数の推移(名)



個人投資家向け会社説明会を実施しています



(東京開催)



(北海道開催)

株主及び個人投資家の皆様当社へのご理解を深めていただきたいとの思いから、全国各地で会社説明会を実施しています。

2015年3月期は9月までに、東京(3会場)、北海道、福島、山形と計6会場にて開催し、約600名の方々にご来場いただきました。

説明会では、当社の事業内容やビジネスモデルについてご説明し、ご来場いただいた皆様からはIPの今後の展開や株主還元などについて、幅広くご質問を頂戴しました。今後もこのような説明会を継続的に実施し、皆様との対話を重ねてまいります。

開催のご報告、配布資料につきましては、当社IRサイトにてご覧いただけます。

http://www.fields.biz/ir/j/library/individual_investor/

2015年3月期 主なIR活動の実施状況

2014年	5月	2014年3月期決算説明 テレフォンカンファレンス開催 事業戦略説明会開催 個人投資家向け会社説明会開催(東京)
	6月	個人投資家向け会社説明会開催(東京) 海外IR実施 第26回定時株主総会開催
	8月	2015年3月期1Q決算説明会開催 個人投資家向け会社説明会開催(北海道)
	9月	個人投資家向け会社説明会開催(福島、山形、東京)
	11月	2015年3月期2Q決算説明会開催 海外IR実施

今後の主なIRスケジュール

2015年	2月	2015年3月期3Q決算説明会開催
	5月	2015年3月期決算説明会開催
	6月	第27回定時株主総会開催

※今後の個人投資家向け会社説明会の開催予定は、当社IRサイトにてご案内いたします。

会社概要

商号	フィールズ株式会社 (英文: FIELDS CORPORATION)
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」
設立	1988年6月
本社所在地	〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16番17号 渋谷ガーデンタワー
資本金	7,948百万円
従業員数	1,677名 (連結)
事業内容	1. キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 2. 映像ソフトの企画開発、販売 3. 遊技機の企画開発 4. 遊技機の仕入、販売
連結対象会社	ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株) (株)フューチャースコープ (株)デジタル・フロンティア (株)BOOOM (株)円谷プロダクション … など計15社



役員

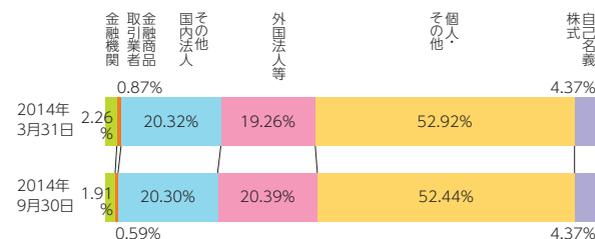
代表取締役会長	山本 英俊
代表取締役社長	大屋 高志
取締役副社長	秋山 清晴
専務取締役	繁松 徹也
常務取締役	栗原 正和
常務取締役	藤井 晶
常務取締役	小澤 謙一
取締役(計画管理本部長)	山中 裕之
取締役(コーポレート本部長)	伊藤 英雄
取締役(PS事業統括本部長)	藤島 輝男
取締役(メディアリレーション事業本部長)	菊池 伸之
社外取締役	糸井 重里
社外監査役 常勤	池澤 憲一
社外監査役	小池 敕夫
社外監査役	古田 善香
社外監査役	中元 紘一郎
執行役員(法務室長)	末永 徹
執行役員(コーポレートコミュニケーション室長)	畑中 英昭
執行役員(PS事業統括本部営業本部長)	若園 秀夫
執行役員(コンテンツプロデュース本部長)	小澤 洋介
執行役員(研究開発室長)	大塩 忠正
執行役員(イメージングプロデュース本部長)	鎌形 英一
執行役員(IPマーケティング本部長)	清水 憲忠
執行役員(コンシューマサービス事業本部長)	山村 豪快男

(注) ()内は主たる役職となっています。

株式状況

発行可能株式総数	138,800,000株
発行済株式総数	34,700,000株
自己名義株式	1,516,200株
株主数	9,042名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
山本 英俊	8,675,000	25.00
(株)SANKYO	5,205,000	15.00
山本 剛史	3,612,800	10.41
(有)ミント	1,600,000	4.61
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NVI01	1,256,500	3.62
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	567,400	1.64
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント	543,413	1.57
大屋 高志	450,000	1.30
ノーザントラスト カンパニー(エイブイエフシー) アカウント ノントリーティ	306,800	0.88
日本トラスティ・サービス信託銀行 (株)(信託口)	236,500	0.68

(注) 当社保有の自己名義株式は大株主(上位10名)から除いております。

第三者による フィールズの 分析レポート



秋山 真理 (あきやま・まり)

1998年慶應義塾大学商学部卒業（計量経済学専攻）、日本生命保険相互会社株式アナリスト、シュローダー証券投信投資顧問（株）運用部日本小型株アナリスト兼ファンドマネージャー、ドイツ運用大手ルーパスアルファセットマネジメントのアジア法人の創業パートナーを経て、2014年11月現在、（株）ネクストウェイインベストメント 取締役・最高投資責任者。社団法人日本証券アナリスト協会検定会員（CMA）、国際公認投資アナリスト（CIIA）。

フィールズ（株）（以下、同社）の現在の魅力のひとつは、「先見性」「勝負・挑戦心」ではないでしょうか。

1990年代以来、広義のマイノリティが活躍し（女性の社会進出、性の多様さ、マニアへの寛容など）、近年のソーシャル（アマチュア・素人）の台頭までに至る、「多様性・複雑さ」が好まれた時代から、今後数十年は、徐々に「シンプル」なもの、「強いもの」に人々は惹かれ、「サバイバル意識」が高まるサイクルに入っていく、という分析があります。弊社ではこれを「キャパシティの振り子」と呼び、世界経済がニュー・ノーマルと呼ばれる低成長時代に入り、地政学的にも不安定な時代となり、また大国が高齢化時代を迎えたことなどと密接な関係があると考えています。足元は過渡期にありますが、ソーシャル疲れや、リーダーシップ・スーパースターの待望、男らしさの復権など、その胎動は各分野で見られ始めています。

そうした時代の大転換点下、同社は2012年、IP（知的財産）を主軸としたビジネスモデルへの戦略転換を宣言、人々は「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」を求める時代に向かうと読み、その心の拠り所としての「ヒーロー」に着目、既存キャッシュカウビジネスであるPS事業のキャッシュ・フローを元手にさらなる飛躍に挑戦しています。

同社は、歴史的にほぼ一貫して、プロの作り手（達）がマスに向けて産み出す、すなわち1対Nの企画・コンテン

ツビジネスに実績と強み、目利きを有していて、自らのその強みと信念、時代の先読み、嗅覚に確固たるコミットメントを示しているように見えます。

すなわち、同社に投資するということは、目先の小さな成長に賭けるのではなく、時代の潮流を先読みし、大きな利益獲得に向かって勝負、挑戦する同社の心意気に賭けることに他なりません。また、その心意気は、各分野のプロの中途採用や若い感性である新卒採用の積極化、幹部育成、IPのヒット確率を高めるためにサイエンスを活用する目的で設立されたフィールズ総研等々の施策に表れていると思います。足元では、同社が発行する「月刊ヒーローズ」から『ソウルリヴァイヴァー』が、『ラストサムライ』の制作スタッフと共同脚本開発に着手するなどの今後が楽しみな芽が出始めています。

新旧/内外の人材融合も注目に値します。大きな成功体験を持つ組織が異なるDNAを受け入れることは一般的に困難を伴うものですが、同社はさらなる飛躍に向け、2007年来それを積極的に進めてきているように見えます。異なる血を受け入れ強さを増そうとする。ここにも同社の決意が見てとれます。強いものが求められる時代に向かう中の、同社の強い心での挑戦。IPを中核としたクロスメディア戦略と同社を長年支える屈強なPSの営業力の両輪が力強く回り始めるとき、同社が時代を代表する一社になっていることを期待しています。

Shareholder Memo

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行(株)
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行(株) 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031 取次事務は三井住友信託銀行(株)の本店及び 全国各支店でっております。
上場証券取引所	東京証券取引所(JASDAQスタンダード) 証券コード:2767
公告方法	電子公告 URL http://www.fields.biz/ir/ (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

◎住所変更のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行(株)にお申し出ください。

◎未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行(株)にお申し出ください。

◎「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

※確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

すべての人に最高の余暇を

企業理念への想い

VOICE

1980年代、私たちは、人々の心を豊かにするエンタテインメントの創出に向け、動き始めました。いち早くパチンコ・パチスロ(PS)をメディアと捉え、志を同じくする遊技機メーカーとの業務提携を推進し、キャラクターやストーリーなどの知的財産(IP)を活用した遊技機の企画・開発に取り組むことで、射幸性に頼らないPSの楽しみ方を創造し、市場に提案してまいりました。

そして現在までにPS市場は、アニメやゲームなどのコンテンツを活用した遊技機が大半を占め、ファンからの支持を得ていると考えています。

今後もPS事業部門では、IPを中核としたビジネスモデルにおいて、最大の収益を担っている部門として、企画・開発力の強化、ラインアップの拡充、販売網の拡大を図り、エンタテインメント性の高い遊技機を提供することに努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、私たちの挑戦にご期待いただき、引き続きご支援賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

文・表紙文字—取締役(PS事業統括本部長) 藤島 輝男

IRお問い合わせ先

フィールズ株式会社

コーポレートコミュニケーション室 IR・広報課

TEL 03-5784-2109 MAIL ir@fields.biz

見直しに関する注意事項

本冊子に記載されている業績見直しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。なお、本冊子に記載されている商品・サービス名は、各社の商標又は登録商標となります。



この冊子は環境保全のため、
植物油インキとFSC®認証紙
を使用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の
考えに基づいた見やすいデザ
インの文字を採用しています。